

## 「オホ・ジャウコ…」

伊勢国（現在の三重県）の船頭だった大黒屋光太夫（1751～1828）は、天明二年（1782）、十六名の船員とともに遠州灘で海難に遭い、当時ロシア領だったアリューシャン列島のアムチトカ島に漂着します。極寒の島での過酷な越冬、手作りの船でのベーリング海横断、カムチャッカ半島からイルクーツク、そして首都ペテルブルクへ…。マイナス20度以下にもなるロシアでの苦難の日々に、次々と仲間を失う中、光太夫は博物学者キリル・ラクスマンの協力を得、遂に女帝エカテリーナ2世との謁見を果たします。

当時生き残っていた仲間は光太夫含め五人。艱難辛苦の九年間と、帰国への強い想いに胸を打たれた女帝は、死んでいった光太夫の仲間達を悼む「オホ・ジャウコ（なんと憐れな）」という最大級の憐れみの言葉を発したと言います。

その後、帰国を許された光太夫は、寛政四年（1792）、磯吉、小市（帰国後根室で死亡）とともに、ようやく祖国日本の地を踏むのです。遭難から十年の月日が流れていました…。

さて、オホーツクを出発した光太夫一行は、根室、厚岸などを経て、函館に到着、松前から津軽海峡を渡って三厩に上陸しています。三厩から陸路で江戸に向かう詳しい道程の記述は残っていないようですが、記録が残る他の漂着民のルートと同様、平舘、青森、野辺地、五戸を通して岩手県に入ったと考えられています。光太夫の目には、当時の青森県はどのように映ったのでしょうか…。

## 川内町出身のロシア帰国者

青森県にも、光太夫のようにロシアからの帰国を果たした人物がいるのをご存じでしょうか。

光太夫の帰国から十五年後の文化四年（1807）。<sup>えとろひ</sup>択捉に現れたロシアの軍船が日本人数名を拉致、<sup>しやな</sup>紗那で警備にあっていた盛岡・弘前藩兵と交戦後、二人の日本人を連れ去るといふ「<sup>ころうし</sup>択捉騒動」という事件が起きました。拉致された日本人の一人が、川内町出身の漁場の番人小頭、中川五郎治でした。五郎治は、何度も逃亡しては捕まって送還を繰り返しながら、極寒のシベリアを生き延びました。そして、文化九年（1812）、松前藩に捕らえられた、ロシア艦長ゴローニンとの捕虜交換交渉により、<sup>くわしの</sup>国後島に帰国します。

五郎治は、ロシアで牛痘接種（種痘）に関する医学書『オスペン・ナヤクニーガ』を買い受け、日本に持ち帰りました。この本は、後に幕府通詞の馬場佐十郎が『遁花秘訣』として邦訳、その後利光仙庵が『魯西亞牛痘全書』として出版し、種痘法普及に役立ちました。五郎治自身も、文政七年（1824）には種痘を施したとされ、我が国最初の種痘施術者として名を残しているのです。

## 青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184  
青森市荒川字藤戸 119-7  
電話：017-729-4311  
FAX：017-762-1757  
<http://www.plib.pref.aomori.lg.jp>

## 大黒屋光太夫 その遙かなる旅路

### ●大黒屋光太夫帰国 220 周年●



『光太夫と魯人蝦夷ネモロ滞居之図』部分

（寛政5年 早稲田大学図書館蔵）

光太夫がロシア使節ラクスマンとともに根室に到着した様子を描いたもの。左端の人物が光太夫、右端の人物がラクスマンである。

江戸後期、海難のためロシアに漂着した大黒屋光太夫が、幾多の苦難を乗り越え、協力者キリル・ラクスマンの息子アダムとともに日本に帰国してから今年で220年になります。この事は、日口間での公的外交が行われるきっかけにもなりました。

さて、11月1日は日本紅茶協会によって「紅茶の日」とされています。それには光太夫が関わっています。1791年11月、女帝エカテリーナ2世に謁見し、茶会にも招かれたと考えられているからだそうです。ただし、実際に茶会が開かれたかについては、記録が残っていないようです。

青森県立図書館 参考郷土室  
2012（2015改）

# 大黒屋光太夫 その遙かなる旅路 光太夫帰国 220 周年

大黒屋光太夫 その苦難に満ちた数奇な運命を追体験。

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
吉村昭歴史小説集成 5 大黒屋光太夫／アメリカ彦蔵	吉村昭／著	岩波書店	2009	913.6 ヨシムラ*ア (5)	10213964655
大黒屋光太夫 帝政ロシア漂流の物語	山下恒夫／著	岩波書店	2004	080 イワナミ*シ (4-879)	10213093134
大黒屋光太夫史料集 第1巻～第4巻 江戸漂流記総集 別巻	山下恒夫／編集	日本評論社	2003	289.1 ダイコクヤ*コ	
その時歴史が動いた 22 「ロシア女帝が涙した帰国願ひ・日露交渉の扉を開いた大黒屋光太夫」	NHK取材班／編	KTC中央出版	2003	210.04 ソトキレキ (22)	10213118639
大黒屋光太夫の接吻 異文化コミュニケーションと身体	生田美智子／著	平凡社	1997	289.1 ダイコクヤ*コ	10212053819
光太夫とラクスマン 幕末日露交渉史の一側面	木崎良平／著	刀水書房	1992	210.5 キサキ*リ	10210239947
漂流奇談集成 「幸太夫大全」(※記録によっては幸太夫とされている場合もあります)	加藤貴／校訂	国書刊行会	1990	913.5 ソウショ*エト (1)	10201741746
日本史探訪 第7集 海外編 「大黒屋光太夫」		角川書店	1973	210.08 ニホンシ*タン (7)	10200283637

鎖国体制下の日本。漂流民達は、その理由に関わらず、帰国後も「禁忌を破った者」として扱われ、二度と故郷に戻れない者もありました。

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
松栄丸「広東」漂流物語 近世奥羽人の遭難と異文化体験の記録	小林郁／著	無明舎出版	2015	290.92 コバ*ヤシ*カ	10214673522
絵で学ぶ古文書講座 漂流民と異国船との出会い	油井宏子／著	柏書房	2011	210.029 アブ*ライ*ヒ	10214216993
ヒコの幕末 漂流民ジョセフ・ヒコの生涯	山下昌也／著	水曜社	2007	913.6 ヤマシ*タ*マ	10213731689
ファースト・ジャパニーズジョン万次郎	中濱武彦／著	講談社	2007	289.1 ナカハマ*マ	10213704252
ロシア漂流民・ソウザとゴンザの謎 サンクトペテルブルグの幻影 実証・映像小説	瀬藤祝／著	新読書社	2004	913.6 セトウ*イ	10213151802
展望日本歴史 14 海禁と鎖国	紙屋敦之／編 木村直也／編	東京堂出版	2002	210.08 テンホ*ウ*ニホ (14)	10212875029
魯西亜から来た日本人 漂流民善六物語	大島幹雄／著	広済堂出版	1996	210.59 オオシマ*ミ	10210945376
漂流民とロシア 北の黒船に揺れた幕末日本	木崎良平／著	中央公論社	1991	210.5 キサキ*リ	10210020139
南太平洋の民族誌 江戸時代日本漂流民のみた世界	高山純／著	雄山閣出版	1991	389.7 ヲカヤマ*シ	10200804519

我が国最初の種痘施術者 川内町出身の中川五郎治関連

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
中川五郎次とシベリア経由の牛痘種痘法	松木明知／著	北海道出版企画センター	2009	493.82 マツキ*ア	10214006021
オロシャ雪原の逃亡者 日本にはじめて種痘法をもちこんだ男	鈴木喜代春／作 鶴田幹／絵	PHP研究所	1992	児916J スズ*キ*キ	10210407044
愛の種痘医 日本天然痘物語	浦上五六／著	恒和出版	1980	郷土289.1 ウラカミ*イ	10201129052
あっぱれ五郎治 蝦夷地警固と青森県	楠美鉄二／著	東奥日報社	1974	郷土212A クスミ*テ	10201128958

こちらのサイトもおすすめです。

大黒屋光太夫記念館 <a href="http://suzuka-bunka.jp/kodayu/index.html">http://suzuka-bunka.jp/kodayu/index.html</a>	2005年に開館された、光太夫の故郷、鈴鹿市の記念館です。光太夫に関連する資料が多数収集されています。「大黒屋光太夫・磯吉画幅」などの収蔵資料が紹介されている他、「大黒屋光太夫記念館だより」も読むことができます。
古典籍総合データベース <a href="http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/">http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/</a>	早稲田大学図書館が所蔵する30万点以上の古典籍について、書誌情報や全文画像を見ることができるサイト。「光太夫」関連の絵図や書なども公開されています。

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。